

木更津の地に藤原鎌足が来訪？伝説のサクラの木

かまたりざくら そかぶ
「鎌足桜」祖株



鎌足桜は、^{てんぽう}天保3年（1832）の著作『^{ぼうそうしりょうぞくへん}房総志料続編』で既にその名が確認でき
る^{たんとうはくしよくやえざき}淡桃白色八重咲のヤマザクラ由来の一品種で、^{ゆらい}雄しべもしくは^{はなびら}は花卉の一部が
細く^{くつきよく}屈曲して鎌の形になるという珍しい特徴があります。名前の由来は、^{たいか}大化
の改新の功臣である^{かいしん こうしん ふじわらのかまたり}藤原鎌足に関する^{でんしょう}地元の伝承と結びついたものと推定され
れます。開花の時期は、4月の中・下旬で、^{すいてい}地元では地域を象徴する桜として大
切にされ、^{しんめ つぎき ぞうしよく}指定以前には、この祖株の新芽から接木による増殖が行われて、大
阪府の^{ぞうへいきよく}造幣局や^{かしまじんぐう}茨城県の鹿島神宮など各地に植樹されています。現在、祖株は
^{やな こうぞうじ}矢那の高蔵寺の敷地に移植されていますが、^{かまたりざくらこうえん}鎌足桜公園（木更津市かずさ鎌足
1-2）では、接木によって増やされ植樹された鎌足桜並木を見ることができます。

市指定文化財：記念物（天然記念物）
指定年月日：平成17年2月25日
所在地：木更津市矢那1245（高蔵寺内）
所有者：木更津市
員数：1株
公開・非公開の別：公開
